

☆被災地の歴史資料・文化財の保全、震災の経験の記録化と保存!!
 ★幅広いネットワークづくりを通じて、歴史・文化を復興に活かす!!
 ☆被災地から全国へ、歴史学と社会をめぐる普遍的な課題へ!!

史料ネット News Letter

第45号 2006年5月19日(金)

発行：歴史資料ネットワーク(神戸大学文学部内)



▲出石町H区有文書整理の様様(2006年5月13日撮影)

目次

次

巻頭言 地域史卒論報告会の課題

吉村真樹子・・・・・・・・・2

2006年度史料ネット総会・水損史料保全
 ワークショップ「よみがえれ水損史料へ
 水害に備えて」のご案内・・・・・・5

◆◆特集◆◆

兵庫県豊岡市出石町H区有文書 固着展
 開作業・・・・・・・・・3

参加者の感想

加藤宏文・兒玉州平・手代木美穂・
 正木茂・松田泰典・・・・・・・・・4

災害カンパへのご協力のお礼・・・・・・6

2005年度史料ネット活動日誌・・・・・・6

会員からのお知らせ

伊丹市立博物館 催し物 ご案内・7

巻頭言

地域史卒論報告会の課題

吉村 真樹子



去る3月5日、歴史資料ネットワークは神戸史学会と共に「地域史卒論報告会」を開催した。開催趣旨・当日の報告内容はニュースレター前号に掲載されている通りである。事前準備に多少関わり、当日もスタッフとして参加した立場として、感想を述べることにする。

当日、司会を担当した私が一番危惧したことは、報告後の質疑応答が活発とならない場合、どのように会を進行させていこうかということであった。市民講座の講演とは違い、卒論報告という内容で、市民の方々に分かりやすく、かつ興味をそそることができるのか若干不安だったのである。しかし、この不安は全くの杞憂であった。報告内容に関することから学生生活一般、歴史学を学ぶ学生の進路といったことまで、非常に多岐に渡る質問が出され、活気のある会となった。また、質問を受ける報告者も学部生ということを全く感じさせない回答ぶりであった。初めての経験であるにもかかわらず、真摯に、きちんと質問に答える姿に司会席から感嘆することとなった。

ニュースレター前号にもあるように、報告者はこの経験から多く得るものがあつたようであるし、会自体も好評であつたように思う。しかし、今後続けていく上で何点かの課題を残したことも否めない。まずは報告者をどのように応募するかという点である。今回は準備期間が短かつたということもあり、告知が徹底しなかつた結果、特定の大学からの報告者に偏り、また、当初の目的であつた「進学しない学生の卒論報告の場」とは残念ながらもなかつた(報告者3人のうち2人は進学、1人は就職)。大学で歴史学を学んだとしても、社会人となってそれを活かすことのできる職に就くことは稀である。私の友人も全く違う職を得て、多忙ゆえに歴史的な何かに触れたりすることさえもままならない者が大半であるように思われる。そういった歴史学科で学ぶ大半の学生が歩む道に対して、卒業後も何らかのつながりを持ってもらおう、報告を聞きにこられた市民の方と同様に、社会に出て歴史学を身近に感じる方法はあるのであるといったことを伝えるという当初の意図から考えると、今回の報告者応募は課題を残したといえる。

大学院に進学しない学生にとっては報告を作り上げるということは相当な負担となることは間違いない。卒論の場合は、指導教官に諮問の場で出来ない点を指摘された直後にその内容で報告することになるので、引き受けづらいということもあろう。就職を控え、その点を解消する時間もないということも大いに考えられる。であるから一層、報告をすることによって得られるものが何であるのかということを、主催者として報告者に「おもしろい」・「刺激になる」といった言葉以上で示す必要があるのではないかと感じるのである。その一つの回答が、今回も提示されている学術雑誌への報告内容掲載となるのではないかと。大学生活最大の成果を活字として残すことができる意味は大きいはずである。また、夏ごろから各大学に対してこの会の存在を充分告知し、報告者探しを行うというのも重要ではないだろうか。やはり慣れないことをしてもらう以上はある程度の準備期間も必要だと思う。

一方、参加者をどう増やしていくのかというのも課題の一つである。今回の試みで重要なのは、大学の側から新たに市民の側へと立場を変える学生諸氏に報告を依頼するという点にあったわけであるが、これは将来に向けてのいわば「種蒔き」とすることができる。そもそも「歴史の楽しさ」を知ってもらおうとして、様々な講座などを開催するのだが、そこで想定されている参加者としての「市民」とは一体どういう方々なのであろうか。催しを行う際、私たちはいつも同じ方々にのみアピールしてしまっているのではないか。もちろん会員やサポーターの皆さんにお知らせするのは当然であるし、皆さんに対してよりよい企画を提示したいという気持ちはあるのだが、一方でこのまま続けていくことだけでよいのかと自省することがある。現状の告知では同じ回路上にいる方々にしか伝わっておらず、幅広く「歴史の楽しさ」を伝えるという目的が達成できていないのではないだろうか。今後は違う告知のあり方なども模索していくべきであろう。新たな土地への「種蒔き」を絶えず続けていくことがお互いにとって重要なのだと感じている。

以上、甚だ雑駁に感想を述べた。6月いっぱいまで運営委員を退任し、今後企画等に携わることもない立場からで恐縮であるが、次回以降よりよい会となっていくことを期待したい。

(よしむら・まきこ 史料ネット運営委員)

◆◆特集◆◆

兵庫県豊岡市出石町H区有文書 固着展開作業

出石町H区有文書は、H公民館で保管されていた区有文書や自治会文書で、2004年10月発生の台風23号により、水損の被害に遭いました。

史料ネットは、11月18日に但馬史研究会や出石町教育委員会と協力して出石町内の被災資料調査を行いました。その結果、H地区で大量の水損史料を発見することができました。H区長の了解を得て、翌19日にレスキューし、神戸大学文学部に搬入しました。(株)西宮冷蔵さんが無償で冷凍保管してくださることになり、12月6日に史料を搬入しました。その間に、兵庫県教育委員会が斡旋の労をとってくださり、滋賀県立安土城考古博物館・神戸市埋蔵文化財センター・兵庫県埋蔵文化財調査事務所にて真空凍結乾燥していただきました。

現在これらの史料は、神戸大学文学部にて保管しており、2006年2月以降、乾燥後史料のページどうしがくっついた(固着)部分をはがす(展開)作業を、市民や学生・院生のボランティアにより行っています。4/17現在段ボール箱14箱分の固着展開が終了しています。固着展開後は、H区に返却する予定です。

メールニュースなどと呼びかけますので、固着展開作業へのご協力をよろしくお願いいたします(事務局)。

参加者の感想（五十音順）

◎加藤宏文（かとう・ひろふみ 史料ネット運営委員）

思い出すと一昨年（2003年）の冬、その年の夏の台風23号で水で濡れてしまったこの区有文書をフリーズドライ処理に出すために真空パックに詰める、という作業に参加した。そのときはとりあえず作業を進めたが、フリーズドライ処理でどうなるのか知らなかったので、再び文書を開いてみる事が出来るとは半分も信じていなかったように思う。

この春に文書を展開する作業に参加することが出来た。フリーズドライ処理の結果をみてみたかったので、短時間ではあったが参加した。

付着していた泥や不純物によって固着していたが、軽く力を加えるときれいに開けることができた（ただ、糊で貼られていた領収書等すべてはがれてしまい、仕方なく元の位置に挟んでおくことにした）。私の予想はよい方向に裏切られた。

以前（2004年台風23号直後に）行った、別の資料群の吸水紙による乾燥作業と比較して思ったことがある。比較的厚手の紙でつくられている資料は、水ぬれ状態でも開くことが比較的容易で吸水紙による乾燥で手早く処置できるが、薄手の紙の雑誌や書籍、帳簿類は水に濡れていると開ける手がかりを見つけるのが難しく吸水紙を挟むまでが大変である。これらをきれいに開けられるようにするにはフリーズドライこそがふさわしいのではないだろうか。しかし、フリーズドライ処理が出来る設備を有している機関は少なく、また時間がかかるようである。もし今後も今回のような処理が出来るのか不安である。

私は歴史を勉強している人間なので、何事も、体験してみなくてはわからない、などと心の狭いことを言うつもりはないけれど、資料の救済活動と作業においては、体験しなくては分からないことや、体験したからこそ、考えることができるようになったことがある。

今後水濡れ資料がでてこないことを切に願っているが、今は体験を交流できる仲間を1人でも多く持ちたい、そのように思っている。

◎兒玉州平（こだま・しゅうへい 神戸大学大学院文化学研究科）

史料が濡れている状態のときに、完全に整形した方が展開もしやすいのではないかと思います。一番はじめに見たときには、これが再び乾いて開けるようになるのか思いましたが、今感動を覚えています。

◎手代木美穂（てしろぎ・みほ 東北芸術工科大学）

脱臭剤の効果や実験に基礎情報として、臭いの源を知ることに興味を覚えました。レスキューする人の健康にも配慮した復旧活動を確立する一歩であると思いました。このお仕事（作業）が皆様のボランティア活動であることに心から尊敬の念を思いました。今後も自分なりの形でお手伝いできればと思っています。

◎正木茂（まさき・しげる ボランティア）

常に思っていますが、和紙の強さと、墨の強さを感じている。

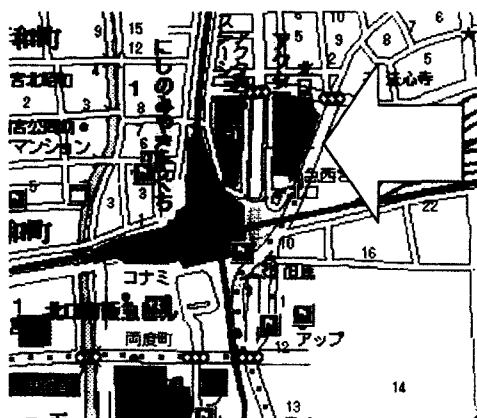
◎松田泰典（まつだ・やすのり 東北芸術工科大学）

出石の戸籍簿を担当させていただきました。作業は専らくつついた紙を1枚1枚丁寧にはがしていくものでした。安全にはがし、文字が見えた瞬間、よかった！という感動を味わえました。歴史を遺す作業に関われてすがすがしい気分です。学生達にもやらせたいと思いました。

2006年度

史料ネット総会・水損史料保全ワークショップ

「よみがえれ水損史料～水害に備えて」のご案内



日時：2006年6月18日（日）

場所：西宮市大学交流センター 講習室1
（西宮市北口町1-2アクタ西宮東館6階、電話 0798-69-3155、阪急西宮北口駅北東）

<史料ネット総会>

開始時間：午前10時半～

（史料ネット会員のみ参加可能）

<水損史料保全ワークショップ（講習会）>

開始時間：午後2時～

報告：松下正和（史料ネット事務局長）「水損史料の処置方法について」

講習内容

- ・ キッチンペーパーでの吸水乾燥
- ・ 真空凍結乾燥済み史料の固着展開

講師：史料ネット運営委員、事務局員他

参加費：資料代500円

定員：50名様

予約お申込先：史料ネット事務局（電話 078-803-5565、メール s-net@hikobu-uac.jp）まで

（趣旨説明）

史料ネットは、2004年台風23号による水濡れ史料を多数レスキューいたしました。その際に文化財修復の専門家の皆さんから、水濡れ史料をキッチンペーパーではさみながら吸水・乾燥させる方法を学びました。また、真空凍結乾燥後に史料のページとページがくっついたのをはがす方法（固着展開）についても、この間の被災史料整理活動でノウハウを蓄積しています。これらのノウハウをより多くの皆様に知っていただきたく、今年度は、サンプル史料を水損させ、参加者の皆さんに実際にキッチンペーパーを利用して乾燥したり、固着した被災資料を展開するワークショップ（講習会）を行うことにいたしました。一度覚えていただければどなたでも簡単にできる作業ですので、史料ネット会員以外の方もお気軽にご参加ください！

■災害カンパへのご協力のお礼

2005年9月の台風14号に際し、多くの方々から史料ネットに募金をお寄せいただきました。2006年4月30日現在、合計55,383円が集まりました。この場を借りましてご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

七海雅人様、楊枝智恵子様、松本靖史様、永野温子様、「火垂るの墓を歩く会」様
2005年度日本史研究会全体会で募金いただいた皆様

■2005年度 史料ネット活動日誌

(2005/6/18) 2005年度史料ネット総会・シンポジウム「風水害から歴史資料を守る」開催

(2005/6/25) 「史料の被災と救済・保存」シンポジウムへの参加

(2005/7/9) 第28回被災史料整理(日高町T家模下張りをはし、於神戸大学文学部以下同)

(2005/7/11) 「シンポジウム 地域資料の保存と活用を考える」第5回準備研究会を共催

(2005/7/13) 第33回運営委員会

(2005/8/7・9) 第7回「火垂るの墓を歩く会」への後援

(2005/8/20) 「神戸大空襲について語ろう～内橋克人氏講演会」への後援

(2005/8/21) 第29回被災史料整理

(2005/8/30) 第34回運営委員会

(2005/9/17) 史料ネットセミナー「災害から歴史遺産を守ろう！」への参加

(2005/9/20) 第35回運営委員会

(2005/9/25) 第1回中世市民講座「神戸源平シンポジウム 源平合戦～伝承された戦いの虚実」開催

(2005/10/1) 台風14号被災地の歴史資料・文化財被害について考える会への参加

(2005/10/3) 第4回阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会への参加

(2005/10/13) 「シンポジウム 地域資料の保存と活用を考える」第6回準備研究会を共催

(2005/10/15) 地方史研究協議会第56回敦賀大会への参加

(2005/10/25) 第36回運営委員会

(2005/11/9) 全史料協研修会福井大会への参加

(2005/11/19) シンポジウム「歴史文化遺産のリスクマネジメントとネットワークを考える」への後援

(2005/11/19) 岡山「史料ネット」講演会への参加

(2005/12/1) 第37回運営委員会

(2005/12/3) 熊本史学会12月例会参加

(2005/12/10) シンポジウム「新潟県中越地震と文化財・歴史資料—1年間のとりくみ—」への参加

(2005/12/10) 「シンポジウム 地域資料の保存と活用を考える」拡大研究会「地域資料活用のための情報ネットワークの現状と課題～資料情報・地域史研究情報の交流をめざして」を共催

(2005/12/18) 第38回運営委員会、「歴史系博物館と指定管理者制度」勉強会開催

(2006/1/10) 第5回阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会への参加

(2006/1/15) 世界考古学会議「文化財と災害」セッションへの参加

(2006/1/26) 第39回運営委員会

(2006/2/12) 兵庫区歴史講演会「ひょうごの寺町」への後援

(2006/2/17) 「シンポジウム 地域資料の保存と活用を考える」第7回準備研究会を共催

(2006/2/23) 第30回被災史料整理(出石町H区有文書固着展開、於神戸大学文学部以下同)

(2006/2/24) 平成17年度愛知県博物館協会美術部門・歴史部門研修会「災害に備える」への参加

(2006/2/28) 第40回運営委員会
(2006/2/28～3/5) 「ひなまつり@郷町館」への後援
(2006/3/5) 地域史卒論報告会(於六甲道勤労市民センター、参加30名)開催
(2006/3/25) 「人と文化遺産の保存継承ミーティング『地域文化遺産を災害から護る活動を知る』～文化財保存の日常から非

日常までを包括した山形文化遺産保存継承ネットワーク(仮)の構築」への参加
(2006/3/31) 第41回運営委員会
(2006/4/3) 第31回被災史料整理
(2006/4/18) 第42回運営委員会
(2006/5/19) 第43回運営委員会
(2006/5/13) 第32回被災史料整理
(2006/5/18) 第44回運営委員会
(2005/6/13) 第45回運営委員会

■会員からのお知らせ

<伊丹市立博物館 テーマ展>

旧村シリーズ「大鹿 ～領主 街道 酒造り～」

- ・会期：2006年5月13日(土)～6月18日(日)(毎週月曜日と5月31日は休館)
- ・場所：伊丹市立博物館 特別展示室 入場無料
- ・開館時間：9時30分～17時(入館は16時30分まで)

伊丹市大鹿地区に残され現在に伝えられた古文書や古絵図、むかしの写真をはじめとする地域の歴史資料を紹介し、近世～近代の大鹿地域の歴史的特質に迫ります。

- 江戸時代の書物にも紹介された「大鹿酒」とは？
- 「西国街道」と「有馬道」、2つの街道が交差する大鹿で起こった出来事とは？
- 江戸時代の殿様と領地の大鹿の人々との「ふれあい」とは？
- 大鹿妙宣寺開基大覚大僧正の雨乞い伝承が「皆法華」の村である大鹿において後世に与えた影響とは？
- ため池を用水以外に活用するとは？
- 明治時代の数年間だけ存在した大鹿小学校とは？

などのテーマについて、歴史資料を用いて明らかにします。

また、このテーマ展は、地域資料の調査・研究の成果を、博物館の歴史展示として公開し、地域の歴史資料の活用の方角を探る試みでもあります。

・問い合わせ先：伊丹市立博物館

〒664-0898 伊丹市千僧1-1-1 Tel:072(783)0582

http://www.city.itami.hyogo.jp/sub/03_asobu/5_hakubutsukan.html から「ホームページ」のURLをクリック

また、兵庫県伊丹市ホームページ(<http://www.city.itami.hyogo.jp/>)の「新着情報」に博物館テーマ展「大鹿」のページへのリンクがあります(2006年5月19日現在)。

(文責：加藤宏文)

平成18年度テーマ展 旧村シリーズ第2弾

大 鹿

～領主 街道 酒造り～

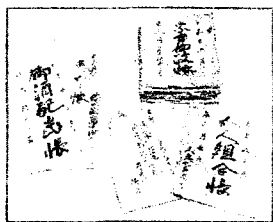
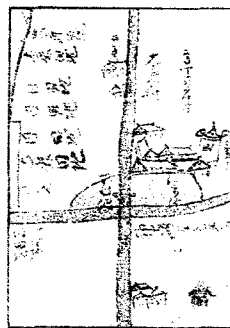
5月13日(土)～6月18日(日)

【毎週月曜日・5月31日は休館】

入 場：無 料

開館時間：9時30分から17時

(入館は16時30分まで)



江戸時代の古文書や絵図・写真など、地域に残された史料から、大鹿地区の歴史について紹介します。

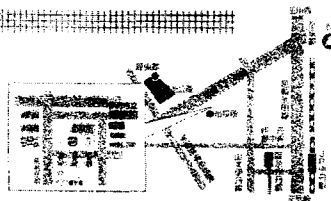
itami

伊丹市立博物館

〒664-0898

伊丹市千鶴1丁目1番地の1

TEL 072-783-0582



史料ネット NEWS LETTER No.45 2006年5月19日発行

編集・発行 歴史資料ネットワーク

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

神戸大学文学部内 史料ネット

TEL&FAX:078-803-5565 (開室時間 平日の午後1時～5時)

URL:<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~macchan/> e-mail:s-net@lit.kobe-u.ac.jp